

### 9. 肝切除後の代償性肥大についての検討

今枝 孟義 仙田 宏平  
加藤 敏光 浅田 修市  
土井 偉誉

(岐大・放)

対象症例は7例である。その内訳は肝右葉に限局した65才と54才の肝細胞癌，5才の肝嚢腫及び生後3か日目の肝芽細胞腫であり，これらに対してはCantlie氏線での右半側切除術や右外側切除術が施行された。更に肝左葉に限局した73才の肝細胞癌，61才の胆細胞癌および1才の過誤腫に対しては左外側切除術が施行された。幼・小児側において切除部位が左，右葉とは関係なく遺残肝の代償性肥大を術後1—3か月に認めた。一方，成人例において切除部位が右葉であると遺残肝の代償性肥大を術後2—3か月して認めたのに対し切除部位が左葉であると遺残肝の代償性肥大は目立たなく，はっきりしなかった。

同様のことは，慢性肝硬変から肝細胞癌の発生を認めた例にもみられ，癌が右葉に発生した例では左葉の肥大を認めたが，左葉に発生してきた例では右葉の肥大は目立たなく，はっきりしなかった。

### 10. $^{99m}\text{Tc}$ -MAA 肺シンチグラフィにおける肺循環の検討

佐々木常雄 松原 一仁  
三島 厚 芝宮 勝人

(名大・放)

従来の $^{99m}\text{Tc}$ -MAAによる肺血流スキャンを行う際，ミニコンを応用することにより肺循環の検討への応用について考察した。島津サール製LF-OVシンチカメラ，シンチパック(16K)，マイクロドット・イメージャーを用い，患者を撮影台上に仰臥させ，2mCiの $^{99m}\text{Tc}$ -MAAを肘静脈から急速に注入すると同時に毎秒2駒の速度でディスクに記憶させる。次に左右両肺に上中下の肺野に分割してROIを設定し，各肺野の循環動態をみ

るために，ヒストグラムをCRT上にディスプレイすることにより，一枚の肺スキャンの解読にあたり，循環動態を同時に評価することが可能である。さらに各肺野の最高値，最低値の計算，両肺のプロフィルのディスプレイも行うことができる。またマイクロドットイメージャーによるRIアンギオの撮影も同時に行うことができる。

### 11. $^{201}\text{TlCl}$ による心筋シンチグラフィの検討

仙田 宏平 今枝 孟義  
加藤 敏光 浅田 修市  
土井 偉誉

(岐大・放)

渡辺佐知郎 後藤 紘司

平野 昭彦

(同・2内)

最近， $^{201}\text{TlCl}$ (塩化タリウム)を入手する機会を得，これを用いた心筋シンチグラフィの臨床応用に当たり，実験的並びに臨床的にいくつかの基礎的問題を検討したので，その結果を報告する。

シンチカメラの検出条件として，コンバージョンコリメータを用い，エネルギーピークを75keVウインドを20%に設定した場合，他の条件と比べ，集積計数率が最も多く，画質も比較的良かった。ファントム実験にて，心筋欠損部は接線方向から検出した際に最も明瞭に描出でき，正面方向からは直径3cmの欠損でも描出がむずかしかった。

心筋梗塞を中心とする各種心疾患15例を対象として臨床的に検討した。撮像時期は静注後25分から90分までが適当であった。撮像方向として，右前斜，正面，左前斜，左側面，左後斜が有用であり，心筋梗塞の部位や拡がりによって，各方向の像に特徴的な所見が据えられた。